

小中学生の学校外活動に関する調査研究

- 学校五日制を迎えた子供たち -

○ 斎藤 哲郎 (川村学園女子大学)

○ 堀 美省一 (千葉県総合教育センター)

○ 佐々木 尚毅 (国立療養所
久里浜病院付属看護学校)

○ 中川 聡 (攻玉社高等学校)

古市 勝也 (国立教育会館)

社会教育研修所)

○ 望月 厚志 (川村学園女子大学)

○ 渡辺 典子 (日本女子大学大学院)

1. 研究の目的

本報告は、学校五日制導入後の子どもたちの学校外活動の実態や家庭生活の変化、特にわが国で最初の学校五日制実施日の行動についてあきらかにすることを目的としている。

学校五日制の導入によって子どもたちの学校外活動並びに家庭生活が大きく変化することが予想され、その変化に対応するためには、今以上に家庭・学校・地域社会の連携が必要不可欠となる。そして、今後どのような取り組みをしていくのか各分野の協力が望まれることはあきらかで、そのための方策について総合的な視点から検討することが必要となる。

また、子どもたちの遊びや様々な体験不足などが人間形成上に少なからず影響を与えていることも各方面から指摘され、体験活動に重点を置いた学校外活動の在り方それ自体の再検討が、緊急の課題となってきている。

一方、学校週五日制についてはこれまでに数々の論議が交わされ、様々な調査が行われてきた。学校週五日制導入の賛否の調査に始まり、実験校での土曜休校試行日の子どもたちの過ごし方の調査、さらに子どもたちが休日となる土曜日をどのように過ごしたいと考えているのかという意識調査も盛んに行われた。また、青少年教育・社会教育施設に対する親や教育関係者の希望・要望などの調査も行われた。そして、例えば、学校が休みになる土曜日には「友達と遊びたい」という希望を持つ子どもが多かったことが報告されている。

確かに、子どもたちが休みになった土曜日に何をしたいかという点については多くの調査によってかなりあきらかとなった。しかし、学校週五日制の受益者である子どもたちが、身近な生活圏でこれまでどのように生活して

きているのか、特に、子どもたちの生活と日常生活圏に存在する青少年教育並びに社会教育施設との関係、すなわち施設の認識や利用の度合など、さらには子どもたちの希望がどのような要因と関係が深いのかということについてはあまりあきらかにされていない。学校五日制を導入後、休日となる土曜日を中心に積極的に青少年活動に参加させたり、社会教育施設の利用させたいという立場からすると、子どもたちの生活と身近な青少年教育・社会教育施設との関係についてあきらかにすることは重要な課題のように思えるのである。

このような課題意識のもとに、青少年の学校外における生活並びに活動の実態を知り、学校五日制への対応について考え、さらには今後の青少年の育成のあるべき方向性を探るための基礎資料を得よう計画した。まず、学校五日制実施以前の実態を把握すると共に全国調査の準備をする必要性から、地域を限定して児童生徒の日常生活の実態について予備調査を行った。この予備調査は、千葉県柏市を調査地域として小学校四年生、中学校二年生、高校三年生の合計六二三人を対象に、友人関係、休みの土曜日にやりたいこと、青少年団体参加と学校外活動、連続休日の行動、学校外活動における希望施設、異年齢の友達と遊ぶ機会、欲しい情報、生活行動などについて調査を行った。そして、今回はその調査結果を基礎に、1992年9月12日の子どもたちの生活を中心に全国規模の調査を実施することとなった。今回の全国調査は小学校五年生2000人、中学校二年生2000人とその親4000人を対象として行うものである。この調査は、この発表要旨提出締切日以後に実施するものであるので、調査結果については残念ながら掲載することが不可能である。そこで、今回の調査の基礎となっている予備調査の概要の

一部をここに提示して本調査との比較に資したい。

II. 予備調査結果の概略－学校五日制導入以前の子どもたちの日常生活の様子と考え方

(1) 仲の良い友達と仲間づくり

友達関係について調べてみた。仲の良い友達の数に関しては、「五人よりも多い」と答えた者が全体の74.2%と最も多い。これを学校段階別に見ていくと、小学生全体では69.5%、中学生は78.9%、高校生の83.3%と、学年が上に行くほど友達の数が多い子どもたちが増えてきている。

では、彼らは、一体どんな所から仲間づくりをしているのであろうか。それについて全体でみてみると、最も多いのが、「学校の同じクラス」で88.4%、「前に同じクラスだった」が65.3%、「クラブ活動を通して」が46.7%、「家が近いから」が45.7%、「塾やおけいこごと」が33.4%、「子ども会など」が9.8%の順となっている（複数回答）。性別でみてもこの傾向は変わらない。しかし、学校段階別では、特に小学生と中学生とでは異なった傾向を示している。小学生の場合には「家が近い」、「子ども会など」を仲間づくりの契機として指摘する場合が目立つ。これに対して中学生では「塾・おけいこごと」、「クラブ活動」が仲間づくりの重要な契機の一つとなっている。

さらに、異年齢の友達と遊ぶ機会について調べてみると、全体の53.6%が「異年齢と遊ぶ機会はない」と回答している。ここで特徴的なことは、新しい住宅地域では異年齢の友人と遊ぶ機会が少なく、また、年齢が上がるにしたがって異年齢と遊ぶ機会が減少しているということである。ただし、性別による差はみられない。これらから判断すると、子どもたちの仲間のほとんどが同一学校のしかも同学年か同学級生に限られ、異年齢の仲間、地域を越えた仲間或は仲間づくりが極めて少ないということが伺える。

(2) 子ども会などへの参加状況

次に、地域のスポーツクラブや子ども会などへの参加状況を調べてみた。その結果、加

入している者が41.4%、未加入者が55.2%と、未加入者が全体の半数を越えていることがあきらかとなった。これを性別や学校段階別でみてみると、性別では男子よりも女子において加入者が多く、学校段階別では小学生が圧倒的に多く加入していることがわかる。小学生の加入率は72.5%である。これに対して中学生では5.1%にすぎない。また、居住地域別では、新興住宅地・団地地域の子どもたちの加入率が特に低い。さらに、その加入団体の種類をみていくと、「子ども会」と「スポーツクラブ」が中心で「ボランティア団体」などに属している子どもは一人もみあたらない。特に、女子の「子ども会」加入率が極めて高い。

(3) 青少年教育・社会教育施設の利用及び活動への参加状況

同じように、子どもたちが身近にある青少年教育や社会教育施設等が開催している各種事業への参加状況についてを調べてみた。その結果を示したのが図1である。〔資料抄 図1を参照〕

これをみると、子どもたちに最も馴染み深い施設は地域の図書館であることがわかる。それでも開催事業に参加したり、施設を使ったことがあるという参加・使用率はおよそ三割程度であり、全体として現在身近に存在する青少年教育・社会教育施設は、子どもたちにとっては疎遠なところといえる。

(4) 連休の過ごし方と普段の学校外活動の実態

次に、土曜日と日曜日の連休の過ごし方を1991年の11月23日と24日の連休を例にしてその姿を探ってみた。その結果を示すと図2のようになる。〔資料抄 図2を参照〕

11月23・24日の二日間とも、「友だちと遊んだ」、「家でテレビゲームをした」、「部活」、「家で一人で勉強した」、そして「家でごろごろしていた」という子どもたちが多く、家族揃っての行動できる「買い物」、「旅行」、「家族でレクリエーション」などについては全体に低調な姿がみられる。また、ボーイスカウト活動などの「団体活動」に参加した者も非常に数少ない。

これを学校段階別にみると、小学生は友人

と遊んだり、スポーツをしたり、家族とともに過ごした子どもたちが多かったが、中学生となると友人と遊ぶことやスポーツをすることよりも部活をする者や家で一人で勉強する者が断然多くなる。そして、二日間の行動を個別に関連づけてみると、11月23日に「友だちと遊んだ」、「家でテレビゲーム」、「部活」、「家で一人で勉強」、そして「スポーツ」をしていたという子どもたちのそれぞれのおよそ半数が11月24日も同じ行動をしていることがわかる。例えば、23日に「家で一人で勉強」していたという子どものうち58%（全体に対して7.5%）が24日も「家で一人で勉強」しているのである。

さらに、11月28日（木曜日）、11月30日（土曜日）、12月1日（日曜日）の三日間の子どもたちの学校外行動の実態を分刻みで調べ、生活時間帯をそれぞれ二時間づつに区切って、行動の経過が見られるように整理してみた。その結果の一部で、11月30日（土曜日）の子どもたちの居場所についてまとめたものが表1である。

夜間はともかく、この日は天候もよかったのにもかかわらず、二時から四時台に自分の家にいたという子どもたちが多く全体のおよそ四割に達している。児童館・公民館・図書館などの社会教育施設へ行ったり、ボランティア活動に参加した子どもは極めて少ない。

（5）学校外活動で利用したい施設

次に、学校外活動で利用したい施設の希望について、自由記述で回答を求めた結果についてみてみたい。希望する施設として、「体育館、球技場、遊園地、公園、自然・交通公園、プール、野球場、グラウンド、競技場、動物園、水族館、図書館、博物館、美術館、資料館、遊技場、ゲームセンター、アイススケート場、ローラースケート場」など、様々な施設を子どもたちが希望していることがわかった。中でも、体育館、公園、プール、グラウンドなどスポーツ関係施設の利用希望が多い。そして、このような希望は、友達が多く、しかも学校が楽しく感じられ、もっと遊びたいという子どもによくみられる。それに対して、図書館・博物館・美術館などの社会教育施設を希望するものは5%前後と少なく、高校生は一人も希望していない。

（6）活動可能な場所としてどんなところを知っているのか

次に、調査対象地域内にある様々な施設を取り上げ、これらを遊びや活動が可能な施設として認知しているかどうかについてを調べた。その結果、公園86.2%、近隣センター・プール63.6%、図書館60.4%、公民館24.9%、青少年広場8.8%、博物館7.9%などの認知率となっていた。

全体的にいえることは、やはり子どもたちは身近な様々な施設のことをよく知らない、ということである。学校段階別には、小学生、中学生、高校生の違いが明確に現れており、中でも中学生の認知度が高い。公園・図書館などの認知が高率であることは先の利用状況からも理解できるとしても、他の施設、特に青少年教育・社会教育施設やスポーツ施設についての認知度が低いことは注目すべきことのように思える。

そこで、このような場所をどのような方法で知ったのかということについて尋ねてみると、「自分で見つけた」（72.7%）、「友だちから教えてもらった」（63.7%）、「親から教えてもらった」（45.6%）、「きょうだいから知った」（21.2%）などの指摘率が高く、逆に「活動の指導者から」（5.5%）、「近所の公民館・駅・郵便局など」（5.5%）、「新聞やテレビで知った」（7.4%）、「学校の先生から」（8.3%）、「市の広報誌などから」（10.8%）の指摘率が低い。つまり、子どもたちは活動の指導者や教育関係者以外の身近な人々から情報を得ており、教育関係者の指導や情報提供、地域社会の広報活動が効率的に行われていないことが推測される。

（7）土曜日に学校が休みになったら何をしたいか

最後に、「土曜日に学校が休みになったら何をしたいか」ということについて子どもたちに尋ねてみた結果についてみてみると、「近所で友達と遊びたい」と「のんびりしたい」という項目を全体のほぼ半数が指摘していた。ついで「旅行にいきたい」、「寝たい」という意見が多い。「公民館・児童館などにいきたい」という子どもが一人もいないということに注目しなければならない。

III. 資料抄

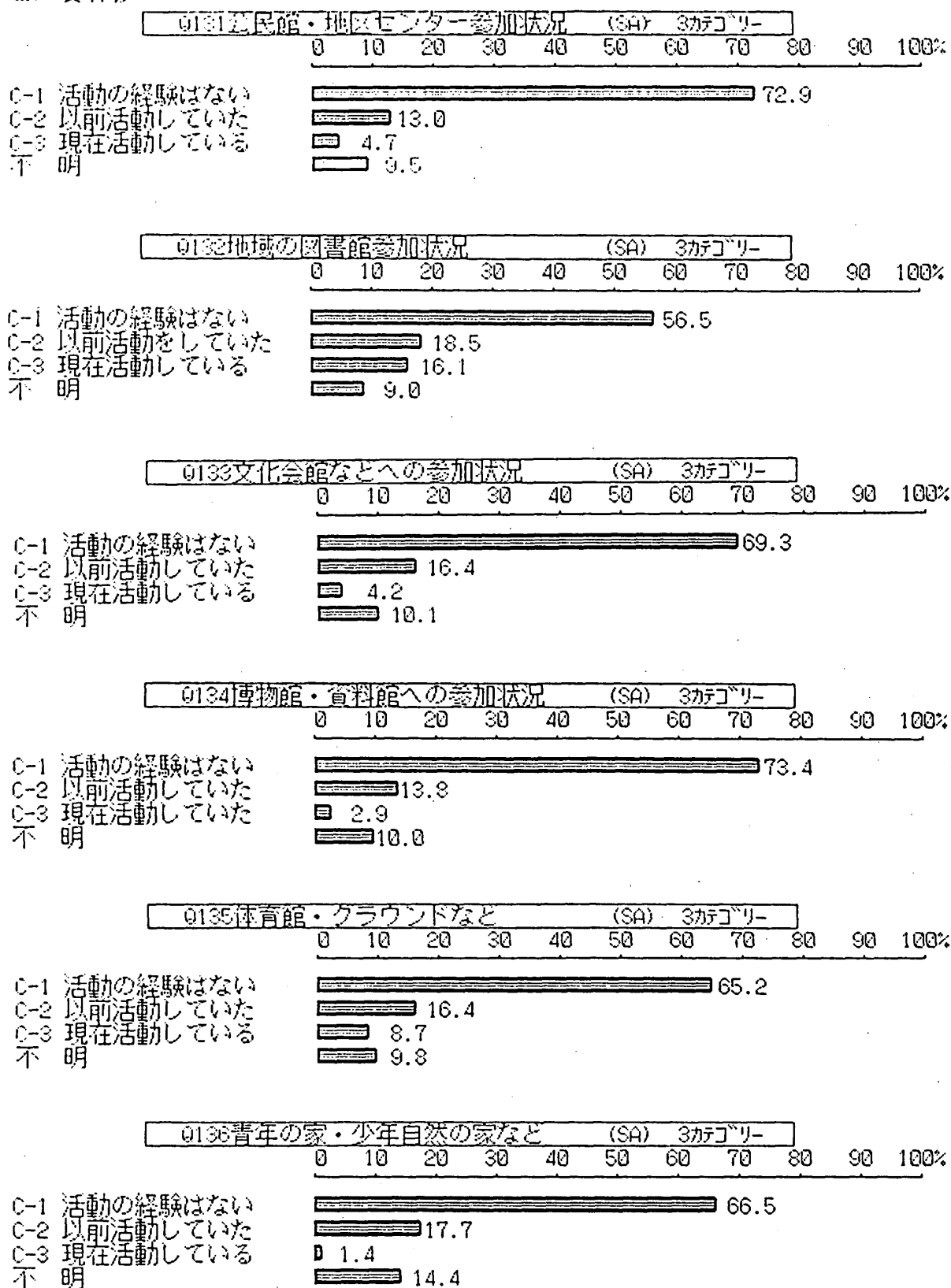


図 1 青少年教育・社会教育施設の利用及び活動への参加状況

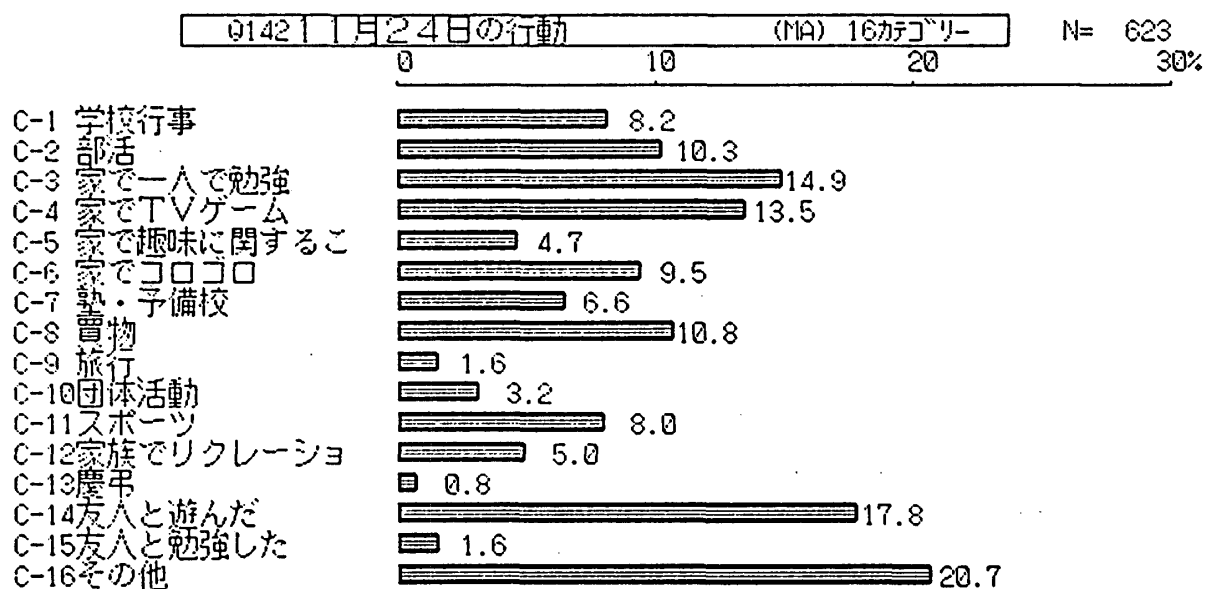
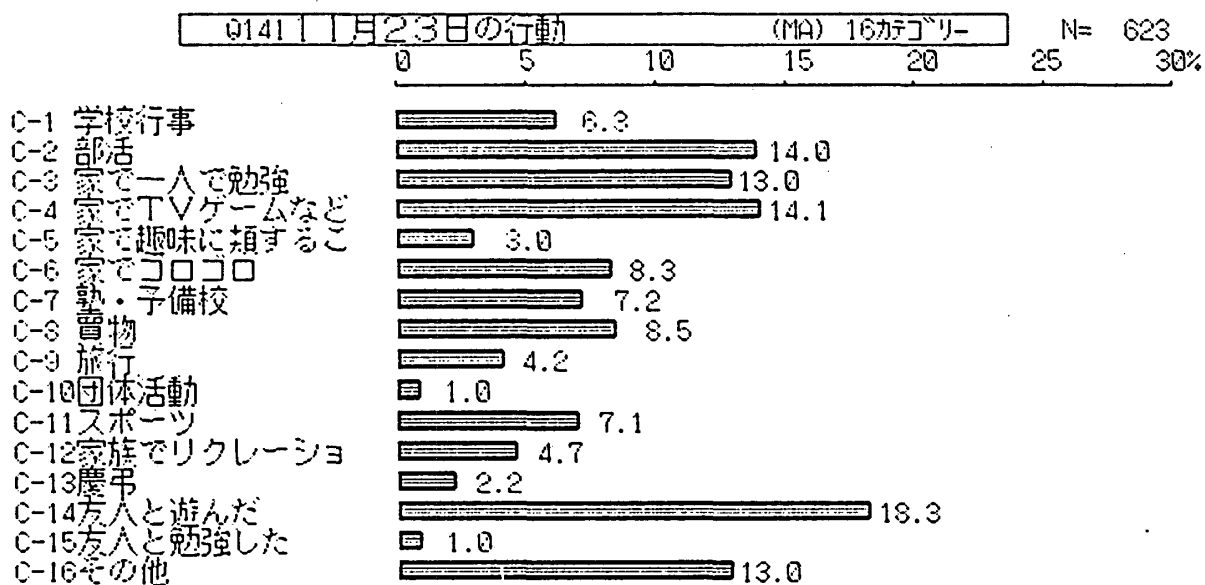


図2 連休の過ごし方

表 1 土曜日の子どもの居場所

土曜日の子供の居場所 (11月30日) 晴れ

対623人

場 所	午後2時	午後4時	午後6時	午後8時	午後10時
あ 学校(の中)	25(4.0%)	19(3.0%)	3(0.5%)	4(0.6%)	0(0.0%)
い 学校の校庭	35(5.6%)	35(5.6%)	3(0.5%)	1(0.2%)	1(0.2%)
う 学校の周り	3(0.5%)	3(0.5%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
え 公立の運動施設	3(0.5%)	3(0.5%)	2(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
お ストック・ゲーム	1(0.2%)	0(0.0%)	1(0.2%)	2(0.3%)	0(0.0%)
か 児童館・公民館	1(0.2%)	2(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
き 図書館	0(0.0%)	3(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
く 塾	13(2.1%)	32(5.1%)	32(5.1%)	42(6.7%)	8(1.3%)
け 予備校	0(0.0%)	2(0.3%)	1(0.2%)	3(0.5%)	0(0.0%)
こ 自分の家	207(33.2%)	237(38.0%)	427(68.5%)	478(76.7%)	506(81.2%)
さ 友達の家	48(7.7%)	43(6.9%)	6(1.0%)	2(0.3%)	1(0.2%)
し 親戚などの家	5(0.8%)	4(0.6%)	6(1.0%)	3(0.5%)	4(0.6%)
す 近くの病院	2(0.3%)	2(0.3%)	3(0.5%)	1(0.2%)	0(0.0%)
せ 大きな総合病院	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
そ 本屋	3(0.5%)	9(1.4%)	1(0.2%)	0(0.0%)	1(0.2%)
た コンピューター	3(0.5%)	0(0.0%)	3(0.5%)	2(0.3%)	1(0.2%)
ち スーパー	6(1.0%)	5(0.8%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
つ 百貨店・デパート	16(2.6%)	22(3.5%)	12(1.9%)	1(0.2%)	0(0.0%)
て 駅ビル	1(0.2%)	1(0.2%)	2(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
と 理髪店・美容院	3(0.5%)	0(0.0%)	4(0.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
な カフェ・センター	0(0.0%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
に 近所にある教室	9(1.4%)	8(1.3%)	6(1.0%)	1(0.2%)	0(0.0%)
ぬ 公園・広場	22(3.5%)	20(3.2%)	0(0.0%)	3(0.5%)	2(0.3%)
ね ゲームセンター	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
の カラオケボックス	1(0.2%)	2(0.3%)	2(0.3%)	1(0.2%)	0(0.0%)
は ボーリング場	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.2%)	1(0.2%)
ひ レンタルビデオ店	2(0.3%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ふ ファーストフードの店	1(0.2%)	0(0.0%)	1(0.2%)	1(0.2%)	0(0.0%)
へ 喫茶店	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ほ レストラン	1(0.2%)	0(0.0%)	2(0.3%)	2(0.3%)	0(0.0%)
ま その他の飲食店	1(0.2%)	0(0.0%)	5(0.8%)	2(0.3%)	0(0.0%)
み 繁華街	2(0.3%)	3(0.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.2%)
む 老人ホーム	1(0.2%)	1(0.2%)	1(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
め 社会福祉施設	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
も 映画館	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
や 美術館	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
ゆ 青少年センター	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
よ その他	37(5.9%)	55(8.8%)	25(4.7%)	15(2.4%)	14(2.2%)
無回答	12(1.9%)	20(3.2%)	12(1.9%)	14(2.2%)	22(3.5%)
不明	158(25.4%)	90(14.4%)	56(9.0%)	44(7.1%)	61(9.8%)

【参考文献】

- (1) 学校五日制を展望した児童・生徒の校外生活に関する研究協議会『神奈川の子どもたちと学校五日制』
- (2) 千葉県松戸市教育委員会・教育研究所『学校週五日制に関する調査』(1992年 3月)
- (3) くもん子ども研究所編『学校五日制・子どもモニター・アンケートVol.3』(1992年 5月)